

**第9回日本発の社会貢献ファンドレイジング研究会**  
**「 Bangladesh のマイクロファイナンスを巡る最新事情」(実施報告)**

平成 26 年 10 月 13 日

社会デザイン研究学会承認「日本発の社会貢献ファンドレイジング研究会」は、9 月 13 日午後、アライアンス・フォーラム財団 MF 事業担当**桑名志帆氏**を講師に招いて、講演研究会を催したところ、概要次のとおり公開します。

日時：9 月 13 日（土） 時間：13:30～16:00

場所： アジア文化会館第 101 号室

テーマ：「 Bangladesh のマイクロファイナンスを巡る最新事情」

主催：社会デザイン研究学会承認「日本発の社会貢献ファンドレイジング研究会」  
マイクロファイナンス研究ラボ共催

出席者：講師を含め 15 名（研究会所属メンバー 3 名）

（参考）アライアンス・フォーラム財団について

◆アライアンス・フォーラム財団は、米国と日本に事務所を有し、 Bangladesh とザンビアに活動拠点を有している。アライアンス・フォーラム財団は、 Bangladesh において、人材育成部門の事業として MF コースを実施している。米国での設立は 1985 年、日本法人の設立は 2011 年で、「技術を使って世界を変える」を理念に掲げている。

1. 桑名氏プレゼンテーションの主要点と概要

(主要点)

- Bangladesh のマイクロファイナンスはサービスの提供者も受け手も成熟している。人々は、世代にまたがって、MF サービスに関わってきており、金融リタラシーは高い。
- マイクロクレジットの貸付金利の上限は 27%。少額融資からスタートして、成功裡に返済すれば、より多額の融資を受ける途が開かれる。
- 集会方式を維持している MF 機関は多い。但し、グループ連帯保証制度は消滅の方向で、また、集会の頻度等変化が生じてきている。さらにお金の出し入れだけでなく、他のサービス（保健や薬の販売、栄養相談等）を同時に提供するケースが見受けられる。
- 携帯を持つ人は増えているが、モバイルマネーは、まだ浸透しきっていない。

(概要)

●6月に4つの組織 BRAC、SafeSave、BURO、TMSS の各事務所/フィールドを訪問。

●BRAC :

- ・毎週の集会は、月1回方式に移行。5名1グループ×5グループで集会を構成。
- ・貸し出し金利は、27%。返済率99%
- ・集会では、クレジットの提供、返済、融資の申請を行う。BRACのMF以外のプログラムには健康相談、クリニック・サービス、教育等、多岐に渡るサービスを提供。
- ・b-kash(携帯電話によるサービス)は、お金の出し入れ自体は人・支店を介して行う。  
b-kashを使ったMFは、貯蓄・送金に活用されている。
- ・最貧困層をターゲットとした給付事業(Targeting Ultra Poor Program)サイトには行けず、代わりにMFを活用した乳製品製造事業を視察した。BRACが農民にMFを提供し、農民が工場で乳製品を生産し、BRACが製品を購入し、市場で富裕層を対象に販売する。農民はBRACに販売した利益から返済を行うという仕組みで、農民の収入創出に貢献。

●SafeSave :

- ・1996年に創設された団体で、現在BRACプロジェクトの一部を構成
- ・顧客は19000人でうち、9500名にローンを提供。
- ・ダッカ市内のスラム街を中心に7店舗で活動を行う。
- ・ローンコレクターは毎日一軒一軒回り、お金を回収している。モバイルデバイスを使い、出し入れの記録を行う。
- ・男性顧客も多いのが特徴。

●BURO :

- ・貯蓄と融資を切り離している。
- ・集会は、クレジットの提供、返済のほか、教育、健康、衛生等様々な開発問題を話し合う場として活用している。
- ・商業銀行からの借り入れを行っている・
- ・極貧層と中間貧困層を区分している。
- ・大手マイクロファイナンス機関と顧客情報を共有している。
- ・大手商業金融機関と提携し、生体認証技術を使ったお金の出し入れを進めている。(ATMのような役割)

●TMSS :

- ・代表のホスネ・アラ・ベガム(Dr. Hosne Ara Begum)は男性から女性に性転換した人物。
- ・組織は、もともとNGOで、保健、教育、MFが一体となったHEMプログラムを実施。1980年に現代表により改編。
- ・週1回、5名5グループで集会を実施。
- ・融資金利は27%。うち融資部分は16%。残りは他のサービスに内部補てん。

・ローン・オフィサーには、ヘルスワーカー（保健スタッフ）とアシスタントが同行。

## 2. 研究会運営者報告主要点

●2006年に**マイクロクレジット規制法が成立**し、翌年からMFIの免許制が導入された（グラミン銀行は対象外）。2007年末から2008年末にかけて、マイクロクレジットの規制当局であるMRA（the Microcredit Regulatory Authority）は**400近いMFIに免許を付与**し、その後、200以上に免許が付与され、現在600以上のMFIが免許を有している。業界団体CDF（the Credit and Development Forum）によれば、2008年612のMFIからデータを収集し、借入者はのべ2400万人に達する。うち、複数の貸付を勘案し、実借入者数は1500万世帯1700万人と推定。すなわち、**バングラデシュ約3300万世帯のうち、約半数がMFIの貸付を享受**。

●バングラデシュのMFIは、2002年から2007年まで急速に規模を拡大。実行借入者数は年15~28%の割合で急増。

●債務に対する担保なしの伝統的グループ連帯責任システムが世界で最初にグラミン銀行によって導入された国であるが、現在は、集会在定期的に行われている例はあるにしても、**グループ債務連帯責任制度はほぼ消滅**（グラミン銀行も2002年にグラミンIIを開始し、抜本的な制度改革を行った）。

●2011年に、**貸出金利の上限を27%とする規制法が成立**。

●バングラデシュの4大MFIであるASA、BRAC、BURO、GRAMEEN Bankは過去10年間のバングラデシュにおけるマイクロファイナンス融資額の2/3を供給してきたが、その**事務所数、スタッフ数の拡大基調は、（各機関による対外向け説明もないまま）2008年にブレーキがかかり大きな転機を迎えた**。

●以後4大MFIの顧客（借入者）数の増加も止まり、以後緩やかな減少傾向にある。

●一方で、マイクロクレジットの融資残高は、2007年~2008年に一時停滞したが、2011~2012年に再び増加し始めた。小規模企業融資（SEL）の融資残高に占める割合は、2003年の10%から2012年には30%に増加した。これは、バングラデシュにおける**マイクロクレジットの規模や対象に実質的な変化が生じていることを示している**。

●ASAが2013年に実施したASAプログラムのインパクト調査では、貯蓄の拡大、融資額を個人の能力・スキルを踏まえて柔軟に設定する必要性が強調されたほか、集会は、お金の出し入れ以外に保健、栄養その他のサービスの場としても活用され、また、女性の社会開発問題、権利等への気づきを促し、ネットワークを拡大する場としても活用すべきと提言。

## 3. 質疑応答（注：●は講師以外の出席者の回答を含む）

（1）BRACの集会在部分的（60%程度の一部グループ）に週1から月1に変更になった理由

●経費の削減の理由のほか、BRACと顧客の間に信頼関係が存在することが背景にある

と考えられる。

(2) グループ連帯保証制度は存在するのか。

●グループ集会でお金の出し入れを行っているところは多いが、BRAC やグラミン銀行や ASA では、連帯保証制度はまったく存在しなくなったのかははっきりしないが、なくなりつつあるのは間違いないと思う。BURO は確認の必要がある。

(3) 連帯保証制度がなくなりつつある一方、多くの MFI で融資の返済率が 99%ということだが、債務の返済はどのように確保しているのか。

●融資を受ける場合は、グループの他のメンバーの承認が必要になる。グループの仲間の社会的関係性が返済を促す要因になる。

●家族や親族による連帯責任もあると聞いている。また債務の取立を厳しく行うということも影響する。フィリピンの大手 MFI のケースでは、事情があればともかく、単に返済を怠っている人物に対しては、法的手段に訴えても徹底的に回収を行う方針と聞いたことがある。

(4) 預金を 8~9%の預金金利で MFI に預け、借入金を一律上限金利の 27%で借り入れるというのは、日本の感覚からすれば、貸付金利が高いという印象を受けるが、現地で借りている人は、どのように思っている様子なのか。他の国で金利上限を設定している国はあるのか。

●現地で非公式の金融業者からはるかに高い金利でしか借りられない環境にある場合もあり、そうであれば、27%が高すぎるということはない。

●インドでは、最近、MF の金利の上限が 27%に設定されたと聞いている。ミャンマーでも金利上限は年利 30%、月利 2.5%に設定されている。

(5) 融資の利息は上限の年 27%に設定されていても、融資部分は 16%で、残りは他の部門への内部補助に回されているとの説明があり興味を抱いたが、どのような部門にこの財源が当てられているのか。

●具体的な統計は有していないが、保健や健康サービス、その他職業訓練等の提供に役立てられているものとみられる。

(6) マイクロクレジットの提供を受けようとする際、現地ではどのようにして MFI を選定するのか。

●都市部と農村部でも違うと思うが、近くに MFI の事務所・支部があるとか、女性の顧客が多いので、女性のコミュニティの中で既に関係がある機関を選ぶということが考えられる。

●クレジット以外の+αとして保健や教育・訓練等のサービスが充実しているところを選ぶ可能性がある。一方、しつこい借金の取り立てを嫌い、そうでない機関を選ぶということも考えられる。このような各機関の対応は口コミで伝わっていく。

(7) 少額融資を返済するに従い、より高額な融資を受けることが可能になるとのことであったが、小規模ビジネスで利益を得たのであれば、自転車操業的に年 27%の高金利の融資を受け続ける必要はないのではないか。

- 現地では、ビジネスを拡大したいというニーズは大きい。
- 貯蓄額が急速に拡大していることは、貯蓄を原資に、ビジネスを拡大しようというマインドが育ってきていることを示している。

(参考) バングラデシュにおける一人あたり融資額の平均値

(2012年、出所: Mix Market、単位米ドル)

ASA 152.7、 BRAC 179.5、 BURO 186.2、

Grameen Bank 150.2、 TMSS 159.2

(8) 小規模企業融資が拡大してきているとのことであつたが、MFIの将来の展望如何。

●MFIも規模の拡大とともに、商業銀行化する可能性がある。カンボジアの例では、大手MFIであつたアクレダ銀行(ACLEDA Bank)が、MFIから商業銀行に変貌をとげた例がある。また、同国ではMFIの免許取得要件がより厳しくなつたMDI(一般からの預金受付型MFI)も誕生している。

●フィリピンの大手MFIであるCARDは、MFサービスを提供するCARD NGOからスタートしたが、その成長とともに、経済力をつけてきた人々を対象とするCARD Bankを立ち上げた。ただし、双方ともCARD MRIというグループの一員である。

(9) MFサービスにおけるICTの活用は、コスト削減や利便性の向上という理由によるものか。

●ICTを受け入れてやってみようとする、先進国のIT会社がMF用のパッケージソフトの活用を働きかけてくるケースがある。

●MFサービスは僻地では展開が容易ではなく、モバイル・バンキングはサービスの拡大に有望である。

(10) 携帯電話の普及

●バングラデシュ全国における携帯電話の普及率は35%で、これは都市部であれば、スマートフォンをはじめほとんどが携帯電話を所有していることを物語っている。一方で、農村部での普及はまだまだである。

●携帯電話は、実際のお金の出し入れを電子的に行うのではなく、あくまでデータの管理を電子的に記録するという部分にとどまっている。お金の出し入れ自体は、事務所で人の手を介して行われている。

●現地では、Nokiaの携帯電話が千円ほどで売られている。チャージ料が1回300円~400円ほどである。通話は、プリペイド・カードを購入して行っている。

●パナソニックのソーラーランタン・セミナーに出席したが、現地(アフリカ・ケニア)では携帯電話が一機3千円~4千円で売られていたため、ランタンの販売価格を若干上乘せした5千円にしたとの説明があつた。ランタンのうたい文句は、携帯のチャージができる端子がついているとのことであつた。

(11) 貯蓄の拡大についてのコメント

- 貯蓄の拡大は、現地の顧客だけでなく、外国からの資金が入っているのではないか。
- グラミン銀行の預金が2007年頃に急激に伸びているのは、ユヌス博士のノーベル経済学賞受賞が影響しているのではないか。

(12) バングラデシュのMFIの動向についてのコメント

- MFIの顧客の減少は、バングラデシュの産業構造の変化、すなわち、外国企業の工場の誘致等により、雇用が創出され、MFを必要とする人の層が減少したということではないか。
- 融資額の増加は、為替の変動や生活水準の向上が影響したもので、実質的な融資額の増大とは言えないのではないか。

(13) MFIの動向統計についてのコメント

- Mix Market というデータベースで個別のMFIの統計を入手できることを初めて知った。
- 貸出先別貸出金（産業別等）や預金者別預金の統計が入手できれば、MFIの変化や現状をより正確に把握できるのではないか。

以上